

農業・林業・水産業について

九州・沖縄の農業・林業・水産業の特徴

- 全国の2割の農業産出額(平成26年)を占める農業の拠点です。
- 畜産(ブロイラー、肉用牛、豚)のシェアが特に高く、野菜や果樹、水稻の生産も盛んです。

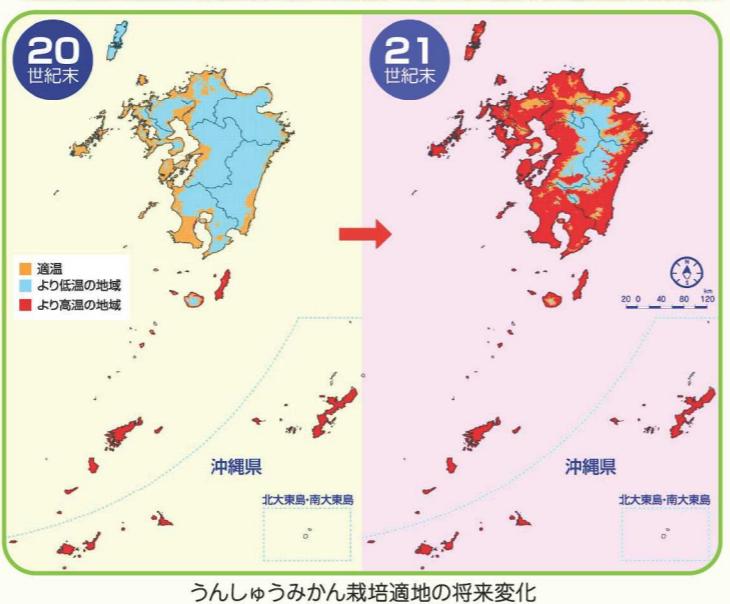
温暖化の影響

- 農作物への影響としては、気温が上昇することで、品質や収量の低下に加え、栽培可能地域に変化が生じます。例えば、21世紀末にはみかんの栽培に適した地域が減少する一方で、タンカンの栽培に適した地域が増加します。
- 畜産への影響としては、暑さで家畜や家きんなどのへい死や、生乳の品質が低下しています。
- 水産業への影響としては、海水温の上昇による漁業、養殖業への被害が発生しています。

九州・沖縄で取り組まれている適応策の例

- 温暖化に対応した高温耐性のある水稻の品種(多収・耐病性水稻品種)の育成・普及を行っています。

【福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県】



自然生態系について

九州・沖縄の自然生態系の特徴

- 「阿蘇くじゅう」など8つの国立公園を有しています。
- 豊かな自然環境と優れた自然生態系が見られます。

温暖化の影響

- 気温上昇によって動植物の生息・生育環境が変わり、分布の状況が変化します。
- 海水温の上昇や、大雨に起因する赤土の流出などにより、サンゴの白化現象が発生しています。また、藻場の消失による沿岸海域の生態系への影響が懸念されています。



藻場(カジメ類)の流失 長崎県壱岐市
(写真提供: (研)水産総合研究センター 西海区水産研究所)

九州・沖縄で取り組まれている適応策の例

- 多自然川づくりの中で必要に応じて水生生物に配慮した護岸の整備を実施しています。

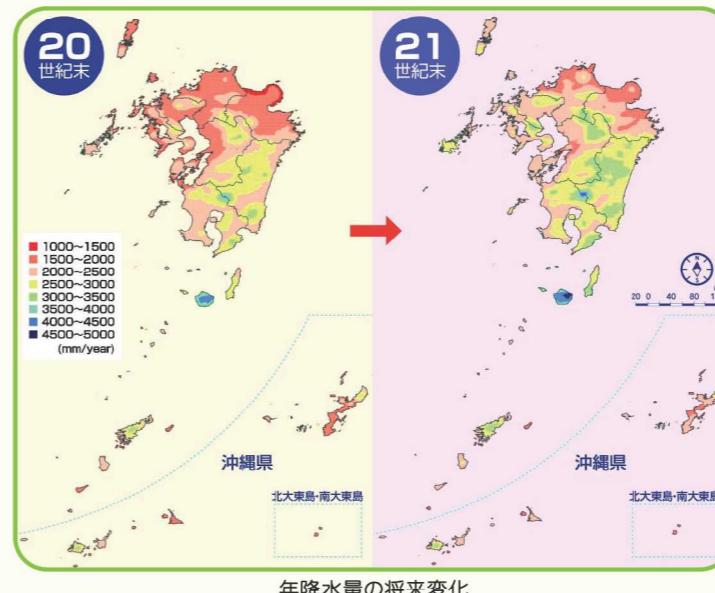
【九州地方整備局】



水環境・水資源について

九州・沖縄の水環境・水資源の特徴

- 地下水や河川水など豊富な水資源がある地域と、水源が乏しいため海水を淡水化して利用する地域があります。
- 有明海、八代海等の閉鎖性海域は、物質循環・水循環の停滞がみられ、水質や底質の改善が課題となっています。



九州・沖縄で取り組まれている適応策の例

- 度重なる台風災害や干ばつ等による気象災害から農作物の水源を確保するために、島嶼地域において、琉球石灰岩を用いた地下ダムを建設しています。【沖縄県】



平成24年7月の北部九州豪雨
(写真提供: 小松利光 九州大学名誉教授)

自然災害・沿岸域について

九州・沖縄の風水害の状況・国土の特徴

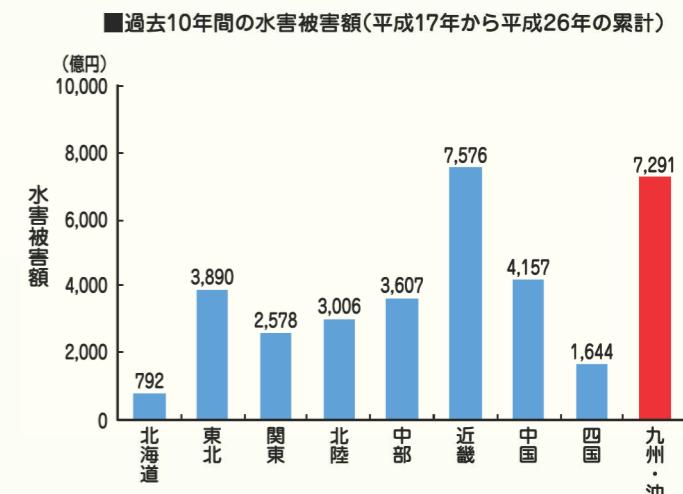
- 台風の上陸や接近数が多く、短時間に強く降る雨などにより、風水害、土砂災害が発生しています。
- 急峻な山地と急流河川が多く、急傾斜危険箇所は全国の2割以上が九州・沖縄に集中しています。

温暖化の影響

- 大雨や短時間強雨の発生頻度が増加します。
- 降水量の増加に伴い、斜面崩壊発生リスクや洪水被害のリスクが高まります。
- 台風の強度増大や海面上昇に伴い、高潮被害のリスクが高まります。

九州・沖縄で取り組まれている適応策の例

- 沼澤を許容することとなる区域において、新たな住家が立地しないよう、市町村が条例により災害危険区域を指定しています。【宮崎県】



〔出典: 水害統計調査(国土交通省)〕